

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	子どもリハビリセンターIllumination		
○保護者評価実施期間	令和6年4月1日		～ 令和6年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	令和6年4月1日		～ 令和6年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月31日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小児リハビリや呼吸循環器リハビリ、専門的な発達支援、安心安全な医療的ケアの実施が可能であり各専門職スタッフによる神経科学や発達科学など科学的根拠に基づいたより専門的で質の高い支援の提供を行っている。	専門資格の取得や学術大会への発表と参加を行い日々研鑽に努めている。また、事業所内の研修会や法人内での認定制度を構築し目標を持って取り組んでいる。最新の取り組みであるCO-OPアプローチやゲーミフィケーション実施を通して、エビデンスレベルの高い支援を提供している。	保護者コミュニティ“connect”や地域の関わりである“子どもフェス”の開催を通して発達支援について様々な方への発信を継続していく。 医療機関や関連職種と連携しながら、忙しい保護者様で行える自宅での支援方法や介助方法も発信していく。
2	保護者様とのコミュニケーションを図りつつ、ニーズに沿った支援の提供を行うと同時に相談支援事業所をはじめとする医療機関や学校との連携を密に行っている。	送迎時や公式LINEを通して常時連絡体制を取っており、職員間で情報共有の実施と支援会議への参加や退院前カンファレンスにも参加を行っている。また、保護者様のニーズにも適時対応し学校へ歩行や介助方法の指導や環境調整にも取り組んでいる。	個別支援計画書の提出だけではなく、当事業所作成のリハビリ報告書や看護計画書の提出を行いながらシームレスな情報共有を図っている。今後は、さらなる医療機関との密な連携を図るためのツールを検討していく。
3	保護者様の働き方支援も視野に入れており、保護者様が笑顔で日々の生活や就労が送れるよう支援を行っている。	保護者様の希望に柔軟に対応しつつ、変更がある場合などは適時相談支援事業所など関連職種との連携を図りながら適切な支援の提供を行っている。	定期的なアンケートの実施や保護者コミュニティの開催など、コミュニケーションを図る機会を設け、随時悩みや相談を受けられる体制作りの強化を継続して行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の方向けに「子どもフェス」を開催し事業所内にて地域の子どもとの交流の機会を設けているが、事業所外での交流の機会を増やしていくことが必要と思う。	事業所外の児童間の連携を重要視している反面、医療的ケア児や重症心身障がい児の感染対策や子どもの心身および心肺機能など身体の状態を把握しつつ行動を行う必要がある。	連携先の感染状況や感染対策、地域の感染状況など最新の情報に目を通しながら、子ども達への感染対策を徹底し取り組む必要がある。
2			
3			